

今できる稽古に感謝を

北海道

新十津川尚武会

小学6年 高橋一絆

「ウン・ドイス・トレイス・クワトロ・シンコ・セイス・セッチ・オイト・ノービ・デイズ」これはポルトガル語で一から十という意味です。「私が生まれて一番最初に覚えた言葉だよ。」と母に教えてもらいました。私は生まれてから三年間、ブラジルのサンパウロという町で過ごしました。当時の記憶はほとんどありませんが、私は平日、日系の保育所で生活をしていたため言葉の覚え始めは日本語とポルトガル語が混ざって覚えていたそうです。私は姉と兄がブラジルで剣道を習い始めた影響もあり、小さい頃から身近に剣道の存在がありました。そんなブラジルでは今、新型コロナウイルスの影響で、感染者が世界でも二番目に多く、入院できる施設も少ないとニュースで知りました。

世界では今、新型コロナウイルスという「怪物」のようなものに支配されてしまっています。私の道場ではその影響で稽古が休みになり最初のうちは「ちょっと稽古が休みになり、うれしいな。」と思っていました。毎日ゲームや勉強をしたり、兄姉で素振りをしたりしていました。しかし、一日一日がつまらなくなり次第に嫌だった勉強や剣道を心から「やりたい！」と思うようになりました。六月から学校が再開され、剣道も徐々に出来るようになりました。しかし、面マスクが息苦しかったり、あまり大きな声をだせなかったり、今までの稽古とは全く違う内容でした。

そんな時、父にブラジルの剣道仲間から連絡がありました。ブラジルで毎週オンライン稽古を始めるという知らせでした。私はブラジルではどのような稽古をしているのか興味があり、オンライン稽古に参加させてもらいました。オンライン上では、ブラジルの剣道の先生が画面の前で、準備体操や素振りをしていました。ポルトガル語なのでよくわかりませんでしたが、時々私の聞き覚えのある「ウン・ドイス」という言葉が聞こえてきて少しうれしく、また懐かしく感じました。オンライン稽古が終わりとっても楽しかったのですが少し複雑な気持ちになりました。ブラジルでは今でも道場に行くことができずに、自宅で一人ずつ一生懸命稽古をしています。それに比べて私は今、制限はありますが道場で稽古ができます。面マスクはしますが対人の稽古もすることができます。そう思うと、稽古ができることにもっと感謝しないといけないなあと思うようになりました。

新型コロナウイルスによってたしかにできなくなったことがたくさんあります。しかし、新しくできたこともあります。高校生のお姉ちゃんが札幌から帰ってきて、家族五人で一緒にご飯を食べたり、たくさんのお話をしたりすることができました。普段の休みは、大会や稽古が続いていましたが、今は家族とお買い物に行ったり、友達と遊んだりする時間が増え

たような気がします。私は今、新型コロナという「怪物」と戦っていくためには、一人ひとりが新型コロナウイルスについて正しく知ることが大切だと思います。そして、自分がどのような行動をしたらよいのか、自分にできることは何なのかを考えていく事が大事だと思います。私は、今度オンライン稽古ではなく、自分が小さい頃に育ったブラジルの地で実際に剣道をやってみたいという夢があります。その夢をかなえるためには、今の現状に不満を持ち稽古に参加するのではなく、今稽古ができることに感謝し、いつも前向きな考えで生活することで少しずつ夢に近づいていけるのではないかと思います。